

竹の皮笠、竹の皮草履、同裏付、破魔弓箭、此類關東筋百姓町人の方ニ而致細工賣渡候而も差障無之哉。之旨就御尋乍恐左ニ奉申上候。○中略

一竹の皮笠の儀ハ、先年は私手下共一同細工ニ致來候由ニ候處、其村々百姓方に而買集候竹皮、草履細工ニ相用候程も行足不申候事故、笠を拵候程ニハ竹の皮間ニ合不申候間、自ラ近頃ハ笠を拵候儀相止メ居候村々も有之候得共、中にハ草履裏付等多分賣捌不申候村々ハ笠を細工ニ仕候村々も有之候間、百姓町人の方ニ而細工ニ不致候様仕度奉存候。

但右品々ハ、何れも竹の皮にて拵候品ニ而百姓町人の方ニ而笠を拵候様相成候ハ、其村百姓町人の方ニ而竹の皮買上候事故、貧窮の手下共、竹の皮買取候儀難相成、右草履細工にも差支難儀仕候間。○中略殊ニ關東筋は竹の皮至而拂底之場所に而百姓町人の方ニ而竹の皮を細工ニ仕候而は、逆も草履細工に行足不申、猶又笠を細工ニ仕候手下共儀は、草履賣捌兼候場所ニ而笠を渡世ニ仕候得ば旁難儀仕候。○中略

右之趣ニ而私手下共儀ハ、一體商賣細工等之品少ク、至而手狹ニ御座候得バ、右品々之外職分無御座百姓町人の方ニ而右品々細工仕候様相成候而ハ、手下共一統差障ニ相成難儀至極仕候間、百姓町人の方ニ而細工ニ不致候様仕度、此段乍恐御賢慮御慈悲之程奉願上候以上。

二月廿日

淺草彈左衛門印

〔甲子夜話十九〕米澤ノ筆、長門ノ傘、鍋島ノ竹子笠、秋月ノ印籠、小倉の合羽ノ裝束ノ如キ、ミナ下々細工ニイタシ。○下略

〔武江年表九〕安政三年、此頃淺草御藏前に、大笠と諱名せる賣卜者出る、タケノコカラサ籠笠の差渡五尺餘もあるべし、岡田某といふ。

〔寛天見聞記〕昔は竹の子笠稀にして、貴賤ともすげ笠をのみ用ひしに、文化の頃より、あじろ笠、竹